
1. 学歴

- 1998年 3月 一橋大学経済学部卒業
2000年 3月 一橋大学大学院経済学研究科修士課程修了
2007年 8月 ミシガン大学経済学部博士号取得(Ph.D. in Economics)

2. 職歴・研究歴

- 2007年 9月 - 2008年 3月 カリフォルニア工科大学人文社会科学部研究員
2008年 4月 一橋大学大学院経済学研究科専任講師
2011年 4月 一橋大学大学院経済学研究科准教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

基礎ミクロ経済学(200番台コア科目)

(b) 大学院

Public Economics, 公共経済学, 現代経済論 I (実験経済学),
Microeconomics for Managers (国際企業戦略研究科)

B. ゼミナール

学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学生の皆さんには、講義を通じて「教養としての経済学」を身につけてほしいと考えています。経済学は必ずしも明日の生活に役立つものではありません。すぐに景気予測ができるようになるわけではないですし、卒業生が全員、エコノミストになるわけでもないでしょう。しかし皆さんが将来どんな職業に就くとしても、経済学の考え方の枠組みは思考の助けになります。

実は私は、聴衆の前に立って講義をするのが大好きです。留学中にはアメリカ人学生に対して 300 回以上、経済数学や日本語文法を講義してきました。その際、学生が自然と講義に参加したくなるよう、身近な実例を教材に取り入れるよう心がけました。本学の講義でも、学生となるべく多くのインターアクションができるよう講義スタイルを工夫しています。

私のゼミでは、学生 1 人 1 人が興味を持っている社会問題について、経済学的な思考の枠組みを使って説得的な主張を展開できるようにすることを目指します。自分とは違う意見を持つ人を説得するため、どんな材料を集めたらよいか。マスメディアや官公庁が公開している資料や学術論文など、膨大な資料の中から必要なものを探し出す方法が身につくようになります。また、それらを上手く組み合わせることで説得力のあるプレゼンテーションをするための、編集力、文章構成力、話し方といったコミュニケーション能力を磨くことを目標にします。

講義やゼミに関する考え方について、もっと詳しく知りたい方は私の個人 HP にあります「教育理念(日本語と英語があります)」をご参照ください。

4. 主な研究テーマ

専門は、実験経済学、行動経済学。主に、組み合わせオークションや時間選好の研究に取り組んでいます。

(1) 時間選好に関する経済実験

人は、将来得られる大きな利得よりも、少ない利得を現在得ることを好む傾向があります。時間選好とは、現在と未来のトレードオフに直面する個人の意思決定にかかわる選好のことです。近年、経済学ではこの時間選好に関する研究(貯蓄・投資行動、退職や医療行為の意思決定、依存症の治療など)が進んできました。

私は、利得発生が遅延を現在時点でのリスクに置換する経済実験を行い、リスクと遅延の正の相関を確認しました。このようにリスク選好と時間選好の両方が同時に働く意思決定をテーマに研究を続けています。

(2) アイトラッキング(視線)

人の意思決定と視線には密接な関係があります。したがって、視線(どこを見ているか)を観察することで、その人の意思決定過程を推測することができます。また、逆に視線を誘導することによって、間接的に意思決定に影響を与えることもできるのです。この相互関係についての実験を行い、データを分析しています。

(3) 組み合わせオークション

組み合わせオークションとは、複数の財が同時に競りにかけられる競売のことで、買い手は複数の財を組み合わせさせてパッケージを作り、入札します。ひとつの財を競り落とすだけのオークションに関しては、すでに確立された理論があり、実験研究の蓄積も豊富にあります。しかし組み合わせオークションについては、理論的研究が今、まさに進行しているところです。また、実験を重ねることで理論の形を探っている段階です。

5. 研究活動

A. 業績

(a) 著書・編著

Essays on Time Preference and Combinatorial Auctions, Doctoral Dissertation, University of Michigan, 2007.

(b) 論文(査読つき論文には*)

* "Multi-Object Auctions with Package Bidding: An Experimental Comparison of Vickrey and iBEA," *Games and Economic Behavior*, Vol. 68, March 2010, pp. 557-579. (with Yan Chen).

* "Scheduling with Package Auctions," *Experimental Economics*, Vol. 13, December 2010, pp. 476-499. (first author, with John C. Lin, Yan Chen, and Thomas Finholt).

* "Non-parametric Test of Time Consistency: Present Bias and Future Bias," *Games and Economic Behavior*, Vol. 71, March 2011, pp. 456-478.

* "Time Discounting: The Concavity of Time Discount Function: An Experimental Study," *Journal of Behavioral Economics and Finance*, Vol. 5, June 2012, pp. 2-9.

「耐震マンションを好む人はどこを見ているか: アイトラッカーを用いた研究」(齊藤誠と共著) 齊藤誠・中川雅之(編著)『人間行動から考える地震リスクのマネジメント: 新しい社会制度を設計する』勁草書房, 2012年, 207-229頁。

「アイトラッキングの可能性」齊藤誠・中川雅之(編著)『人間行動から考える地震リスクのマネジメント: 新しい社会制度を設計する』勁草書房, 2012年, 230-241頁。

(d) その他

- 「終身年金パズルの行動経済学: フレーミング効果と心理会計」『一橋経済学』, 第4巻, 2011年, 79-93頁。
- 「行動経済学に基づいた新しい制度設計: 住宅市場を中心として」(齊藤誠・中川雅之・佐藤主光との共著)『経済セミナー』, 2011年2/3月号, 75-80頁。

B. 最近の研究活動

(a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には*)

- 「社会科学における実験の意義」文部科学省特定領域研究「実験社会科学」サマースクール(信州大学, 2010年8月)。
- 「耐震等級の視覚的評価: アイトラッカーを用いた attention の分析」横浜国立大学セミナー(2010年)。
- 「耐震等級の視覚的評価: アイトラッカーを用いた attention の分析」GCOE ワークショップ『行動経済学コンファレンス』(2010年7月)。
- 「終身年金パズルの行動経済学: フレーミング効果と心理会計」第4回行動経済学会(上智大学, 2010年)。
- 「Towards a Unified Theory of Action for the Social Sciences」第8回日独先端科学(JGFoS)シンポジウム(2011年10月)。
- 「The Concavity of Time Discount Function: An Experimental Study」東京大学セミナー(2011年12月)。
- 「The Concavity of Time Discount Function: An Experimental Study」ESA Asia-Pacific Conference(中国・廈門大学, 2011年12月)。
- 「人を対象とする実験を行う際の倫理規定」実験社会科学ウィンタースクール(早稲田大学, 2011年12月)。
- 「An eye-tracking analysis of willingness to pay for quake-resistance」シンガポール国立大学セミナー(2012年3月)。
- 「逆 S 字型時間割引関数と未来バイアス」大阪大学 GCOE 『ダイナミクスと選好の経済分析コンファレンス』(2012年11月23日)。
- 「視線と意思決定モデル: アイトラッキングによる分析」第6回行動経済学会(青山学院大学, 2012年12月)。
- 「実験経済学: 論文のポピュラリティと研究のデューデリジェンス」『京都大学経済実験室オープニング記念ワークショップ』(2013年2月2日)。
- 「Non-parametric test of time consistency: Present bias and future bias」『行動経済学・行動ファイナンスの発展』(大阪大学行動経済学研究センター, 2014年2月15日)。
- *「Eye tracking under uncertainty」第2回京都大学実験経済学ワークショップ(京都大学, 2014年2月16日)。
- 「Eye movement, drift-diffusion model and the choice」第20回 RISS 総合研究会(関西大学, 2014年2月17日)。
- 「Drift-diffusion model and Gaze Cascade」2014 ESA International Meetings(ハワイ大学, 2014年6月28日)。
- 「ジェンダー差の文献紹介」京都大学フィールド実験ワークショップ(京都大学, 2014年9月30日)。
- 「Eyetracking on HEMS monitors: What do users see for energy saving?」2014 BEHAVIOR, ENERGY & CLIMATE CHANGE CONFERENCE(ワシントンDC, 2014年12月9日)。
- 「Eyetracking on HEMS monitors: What do users see for energy saving?」第3回京都大学実験経済学ワークショップ(京都大学, 2015年1月31日)。

(b) 国内研究プロジェクト

- 「税と社会保障の一体的改革—格差問題と国際化への対応」文部科学省科学研究費補助金, 基盤研究(A),

2008 - 2011 年度, 研究分担者(研究代表者: 田近栄治)。

「高質の住宅ストックを生み出し支える社会システムの設計」近未来の課題解決を目指した実証的社会科学研究推進事業, 2008 - 2012 年度, 研究メンバー(研究代表者: 齊藤誠)。

「時間選好とリスク選好を統合した実験経済学的研究」文部科学省科学研究費補助金, 若手研究(B), 2010 - 2012 年度, 研究代表者。

「眼球運動と経済的意思決定: アイトラッキングを使った実験研究」文部科学省科学研究費補助金, 若手研究(B), 2013 - 2015 年度, 研究代表者。

「時間選好と眼球運動: アイトラッキングを使った経済実験」公益財団法人清明会研究助成, 2014 年度。

「省エネルギー行動変容における経済的インセンティブおよび経済性評価」東京ガス株式会社・一般社団法人日本ガス協会との共同研究, 2014 年 3 月 - 2015 年 3 月, 一橋大学側代表者。

(d) 研究集会オーガナイズ

第 14 回実験社会科学カンファレンス・運営責任者, 2010 年 9 月 12 日, 一橋大学

第 5 回行動経済学会・プログラム委員, 2011 年 12 月 8 - 9 日, 関西学院大学

第 8 回 Economic Science Association アジア太平洋大会・プログラム委員, 2011 年 12 月 15 - 17 日, 厦門大学

日本経済学会 2012 年度春季大会・プログラム委員, 2012 年 6 月 23 - 24 日, 北海道大学

第 6 回行動経済学会・プログラム委員, 2012 年 12 月 8 - 9 日, 青山学院大学

第 9 回 Economic Science Association アジア太平洋大会・運営委員, 2013 年 2 月 15 - 17 日, 一橋講堂

第 7 回行動経済学会・プログラム委員, 2013 年 12 月 14 - 15 日, 京都大学

第 1 回 BECC-JAPAN, 2014 年 9 月 16 - 17 日, 東京大学

第 8 回行動経済学会・プログラム委員, 2014 年 12 月 6 - 7 日, 慶應義塾大学

C. 受賞

Outstanding GSI Award, University of Michigan(2000 人以上の講師のなかから優秀な 20 名に与えられる最優秀講師賞), 2006 年 3 月。

6. 学内行政

(b) 学内委員会

学生委員(2011 - 2012 年度, 2013 - 2014 年度)

国際学生宿舎専門委員(2011 - 2012 年度)

社会から見た大学教育自己点検・評価部会委員(2011 年 6 月 - 2013 年 3 月)

大学院奨学金返還免除者学内選考委員(2011 - 2014 年度)

経済学研究科評価委員(2011 - 2014 年度)

7. 学外活動

(a) 他大学講師等

早稲田大学政治経済学部, 実験経済学, 2009 年 - 2014 年度

東京大学 International Program of Economics, "Introduction to experimental economics," 2011 年 11 月

中国人民大学公共管理学院, "Experimental economics and application to Japan public finance," 2014 年 9 月

(b) 所属学会および学術活動

Economic Science Association

日本経済学会

行動経済学会(理事, 2011年12月 - 2013年12月)

Associate Editor, Economic Inquiry 誌(2010年8月 -)

(c) 公開講座・開放講座

「パパの育児休業を知る・学ぶ・考える」『今、なぜ大切！？「男性の子育て」(家庭学級) 第2回』(主催:Creo, 共催:NPO法人ファザリング・ジャパンおよび杉並区教育委員会, 2011年12月4日)

「父親の育児が日本を救う! ~育休体験をもとに~」『「働きマン」か「イクメン」か、男のワーク・ライフ・バランスを考える 第2回』(主催:国立市公民館, 2012年2月4日)

「眼球運動と経済行動~選択の決め手は目玉か脳味噌か~」『ひらめき☆ときめきサイエンス』(主催:日本学術振興会および齊藤誠(一橋大学), 2012年8月2日)

「“日本最悪のシナリオ”に学ぶ「危機管理」と「リーダーシップ」~いかに“最悪”を回避するのか?~」『六本木スクール』(主催:アカデミーヒルズ, 2013年7月10日)

「実験する行動経済学~行動経済学と私たち:参加して実感する推論と効用関数~」『「行動経済学」一般公開シンポジウム』(主催:京都大学経済学研究科附属プロジェクトセンター, 2013年12月15日)

「人間の感情と経済」(主催:立命館大学経済学会学生委員会, 2013年12月19日)

「最も身近な経済学実験~日常生活に潜む数字の罨」『早稲田文化芸術週間』(主催:早稲田大学文化企画課, 2014年10月23日)

「実験経済学入門」(主催:早稲田大学エクステンションセンター, 2015年1月8日 - 1月29日)

(d) その他

財団法人・日本再建イニシアチブ「危機管理プロジェクト」メンバー(2012年5月 - 10月)

日本科学未来館企画展「波瀾万丈!おかね道」監修協力(2013年3月 - 6月)

8. 官公庁等各種審議会・委員会等における活動

文京区子ども読書活動推進計画策定検討委員会委員(2010年7月 - 2011年1月)

文部科学省特定領域研究「実験社会科学」専門委員会委員(2010年12月 - 2011年11月)

法務省司法試験予備試験考査委員(2011年度, 2012年度, 2013年度, 2014年度)

文部科学省研究振興局学術調査官(2013年8月 - 2015年7月)

文京区「ぶんきょうハッピーベビー応援団」委員(2014年7月 - 2015年3月)

国立市保育審議会副会長(2014年7月 - 2014年10月)

9. 一般的言論活動

「気鋭の論点:耐震性に付加価値あり マンションと行動経済学」『日経ビジネス』1576号(2011年1月31日号), 78頁。

「「年齢別選挙区」で子どもの声を政治に生かせ ドメイン投票より現実的。若さに応じて議席配分を」『日経ビジネスオンライン』2011年6月6日。(http://business.nikkeibp.co.jp/article/manage/20110531/220334/)

特別講演「パパの育休が必要なコレだけの理由」シンポジウム『育休法改正で男性の育児参画はどう変わったの

か?』(主催:NPO 法人ファザーリング・ジャパン, 特別協力:厚生労働省イクメンプロジェクト, 2011年7月26日, 東京都文京区)。

インタビュー「若者の意見をすくい上げる政治とは 論客 2人に聞く C世代駆ける 番外編」日本経済新聞電子版, 2012年3月31日。(http://www.nikkei.com/article/DGXNASM330003_Q2A330C1000000/?df=2)

「「年齢別選挙区」で子どもの声を政治に生かせ ドメイン投票より現実的。余命に応じて議席配分を」『新しい経済の教科書 2012』日経 BP 社, 44-46 頁。

ワールドビジネスサテライト特集「一票の重み」にもうひとつの格差, 世代間格差にコメント, 2012年5月31日。

" Anti-ageing Treatment for your governance: Proposal for National Election System Based on Constituency by Life Expectancy, " *Economy, Culture & History JAPAN SPOTLIGHT*, May/June 2012, pp. 21-23.

「早稲田大学で話題の講義! 竹内幹先生に「実験経済学」を学ぶ」星海社『ザ・ジセダイ教官 知は最高学府にある第3回』2012年6月25日・7月25日(http://ji-sedai.jp/special/kyokan/TakeuchiKan_01.html)

「景観論争から考える「良い経済学、悪い経済学」法律の「正義」と経済学の「正義」の違いとは」『日経ビジネスオンライン』2012年7月31日。(http://business.nikkeibp.co.jp/article/manage/20120727/235029/)

" Donation Culture Becoming Established in Japan through *Kizuna* after 3.11 Earthquake, " *Economy, Culture & History JAPAN SPOTLIGHT*, November/December 2012, pp. 42-45.

「書評:『実験ミクロ経済学』 教室実験を通じて新しい経済教育のインフラを提供する」『経済セミナー』670号(2013年2/3月号), 129頁。

「需要と供給の世界」一橋大学経済学部編『教養としての経済学』有斐閣, 2013年, 101-108頁。

「高齢者と将来世代、どちらを重視するか?」『中央公論』128巻4号(2013年4月号) 120-123頁。

「第9章 人口衰弱(シナリオ原案)」財団法人日本再建イニシアティブ『日本最悪のシナリオ 9つの死角』新潮社, 2013年。

「2050年、超高齢化社会でニッポンの未来はどうなるのか?」『荻上チキ・Session-22』TBSラジオ, 2013年4月17日。

「未来を選べ! 若者の投票率を上げるには」『報・動・力』2013年4月28日放映, KSB 瀬戸内海放送。

「余命別選挙制度とは?」『堤未果のJAM THE WORLD』J-WAVE, 2013年5月8日。

「景観論争から考える「良い経済学、悪い経済学」」『新しい経済の教科書 2013-2014年版』日経 BP 社, 102-104頁。

「保育園～知恵の木の実を食べても終わらないエデンの園」『HQ』2013年夏号, 50頁。

「5分間クイズに挑戦、「思考の弱点」がわかる」『プレジデント』2013年9月2日号, 26-28頁。

「男女共同参画と女性研究者の育成・支援シンポジウム」登壇, 一橋大学女性研究者支援室, 2014年1月23日。

「規制緩和は少子化対策にならない」『金融ジャーナル』2014年5月号, 88-89頁。

「合理的戦略とは何か: 経済実験を通じた考察」『受験サブリ 学問研究ツアー: 大学での学問を覗いてみよう』, 2014年5月17日。

「人はなぜ迷うのか～眼球運動と経済的意思決定の関係」『科研費 NEWS』2014年度 Vol.1, 5頁。

「実験経済学と行動経済学: 実験しなきゃ始まらない」『経済セミナー』号(2014年8/9月号), 37-41頁。

「終身年金は本当に嫌われているのか～行動経済学的考察～」『季刊個人金融』2014年夏号, 22-31頁。

「社会科学系の学びの実例 インタビュー」『東進進学情報』Vol.228, 2014年8月22日号。

「男女の行動の違い」『やさしいところと経済学』日本経済新聞, 2014年12月4日 - 12月17日。

「真の投資なら「もうかる」とは言わない」『日本経済新聞 Web 刊』2015年1月22日, マネー一頁。